動物ふぁいる No.70
生き物ずかん　かごしま水族館 イシダイ
【かごしま水族館☎226-2233FAX223-7692】

イシダイは「タイ」と名の付く魚ですが、マダイの仲間ではありません。日本では、北海道以南や南シナ海の沿岸に生息し、錦江湾でもよく見られます。幼魚の時は砂地の浅瀬や防波堤などでもよく見られ、成長すると60㎝を超える大きさになり、岩の隙間を好みます。

４～７月ごろに産まれる稚魚は、動物プランクトンを食べながら育ちます。幼魚の時は７本の太い横しま模様がくっきり見えることから、英名で「Striped beakfish（しまの、くちばしがある魚）」と呼ばれます。大きくなると海底に生活の場を移し、クチバシのような強い歯を持つことから、甲殻類のほか貝類、ウニやサザエなどの硬い殻も割って食べることができるようになります。

堂々とした姿から磯の王者と呼ばれ、引きの強さから磯釣りで人気があり、熱狂的なファンも多いです。当館では４階の錦江湾水槽で展示していますので、たくましい顔つきで力強く泳ぐ様子を、ぜひ観察してみてください。

学芸員オススメ！ No.88
市立美術館の逸品　十二代沈壽官（ちんじゅかん）『錦手（にしきで）人形置物』
【市立美術館☎224-3400FAX224-3409】

海外で人気を博した白薩摩

薩摩焼の一つである白薩摩は、かつての藩の御用品です。なかでも錦手は、金泥や鮮やかな色絵具で絵付けされた陶器で、藩主のみが取り扱えた貴重品でした。明治に入り海外で人気を博すると、民営の窯で焼かれて盛んに輸出されるようになりました。

この作品は、捻り物（ひねりもの）と呼ばれる置物細工です。片膝を立てて座る男性のもの思いにふける表情や、衣服の質感、指先やひもの細部まで精巧に表現されています。江戸時代までは観音などの聖人像が主流でしたが、明治半ばからは、日常の一場面や動植物を表したユニークなものが登場し、本作もそうした潮流の中で生まれました。

作者は幕末から明治を生きた、十二代沈壽官。浮き彫りや錦手を得意とし、白薩摩の透かし彫りの技術を開発しました。明治６年のウィーン万博では、出品作品が賞賛されるなど、国外でも高い評価を確立し、海外販路の拡大に大きく貢献しました。

かごしまフォロワー
かごフォロ　NPO法人かごしまフィルムオフィス 専務理事 西田 建一 さん
【広報課☎216-1133FAX216-1134】

本市出身で、鹿児島のフィルムコミッション（映画やテレビ番組のロケ地に誘致する団体）として、本市の魅力を国内外に発信している西田建一さんにお話を伺いました。

子どもの頃から絵を描くのが好きで、大学では鹿児島を離れ舞台美術を中心に学びました。就職後、建築について勉強してみることを勧められ、それがきっかけで鹿児島に帰ってきました。当時、知人から鹿児島でロケをしたいと相談があっても、なかなか受け手がいない状況でした。鹿児島にそういった役割を担う者が必要と感じ、仲間と一緒に鹿児島をロケ地とする作品の映画制作に携わり始めました。当初はロケの誘致が中心でしたが、最近では「鹿児島の物語を鹿児島で撮影する」という姿勢のもと、私から脚本づくりなどの提案をすることも増えてきています。

鹿児島は、港町だということが意外と知られていないので、ロケ地で提案するシーンは、海辺の町であることや、桜島が日常生活の中にある町だということを強調しています。

撮影現場を見守る西田さん（右）

今後は国内のみならず、海外にもより目を向けて誘致をしていきたいと考えています。フランスのカンヌは映画祭もあるので世界的に有名ですが、実は鹿児島よりも規模の小さい都市なんです。活火山桜島と共生しているというインパクトを売りに、鹿児島をもっと世界中にアピールしていきたいです。

（インタビューの詳細は広報課インスタグラム「カゴシマファン」などでチェックを）

ひろばサポーターがゆく
市公共施設予約システム
【デジタル戦略推進課☎216-1115FAX216-1117】

予約から支払いまでオンラインで簡単に

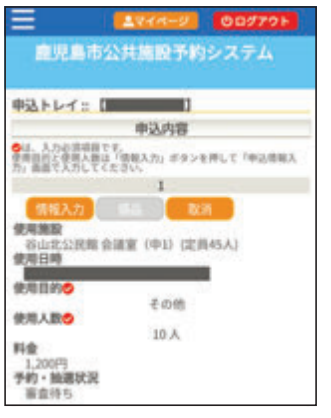
ひろばサポーター 伊藤

広報紙「市民のひろば」３月号で特集された「市公共施設予約システム」。私も普段から公共施設を利用していますが、毎月施設へ足を運び、翌月の予約をしていました。このシステムで、より簡単にオンライン予約ができるようになったとのことで、早速使ってみました。

まずは利用者登録。難しい項目もなくスムーズに登録できました。必要な時にシステムを使えるよう、前もっての登録がお勧めです。

登録後に発行されるＩＤとパスワードで各施設の予約ができます。利用する施設を探すのが大変かと思っていたのですが、地区別、利用目的別に探せて、とても便利です。

施設を選択すると空き状況が一覧で表示され、一目で分かります。私は地域公民館を利用するので、希望の部屋を選択し、使用目的や人数などを入力して申し込み完了。約５分で終わりました！ 申し込み後の抽選や、利用料の窓口での支払いが必要な施設も一部あるそうですが、基本的に全てオンラインで完了します。



今まで通り施設で直接予約することもできますが、これを機に、積極的にオンラインを活用してみてはいかがでしょうか？ 利用の予定がない方も「こんな施設も予約できるんだ」という新しい発見がありますので、試しにシステムをのぞいてみるのも楽しいですよ。

市公共施設予約システム